

# テーマ3：イノベーションエコシステム形成報告書（概要）

令和3年度から検討してきた林業におけるエコシステムの形成に向け、森ハブの支援体制の構築と先進事例の創出を目指した検討を行った

## 1. 支援地域の選定手法

- 先進事例の創出に向け、下記3ステップにて検討を行った
- デスクトップ調査とヒアリングによる地域の現状把握を行ったのち、地域のニーズをふまえたコーディネーターのマッチングや地域での取組検討を推進した



### (1) 地域へのヒアリング

- 地域選定においては、これまでの実績をもとに、地域内で課題が明確化されており、体制が整っていると想定される地域8件、関連団体3団体をリストアップし、ヒアリングにて課題の把握を行った
- ヒアリングの結果、先進的な取組を行っている地域でも、「場」の構築に至っている地域は少なく、地域内の体制構築や意識醸成から推進していく必要があることが分かったため、ニーズに合わせ、令和5年度以降の森ハブの体制やコーディネーターの支援内容の再考を行った

### (2) 地域での支援イメージ

- ヒアリング結果をふまえ、解決すべき課題とその解決策を仮説立て、地域に確認ののち、設定された推進方針に沿ってマッチするコーディネーターのリストアップを実施した
- 取組の検討として、地域の状況をふまえた森ハブによる支援内容や地域との役割分担、エコシステムの拡大の想定イメージを併せて検討した
- 検討した参考事例をもとに令和5年度以降の実際の地域での取組や森ハブによる支援につなげていく想定である

### 各地域でのエコシステム拡大のイメージ



## 2. 森ハブの機能検討

- ヒアリング結果をふまえ、令和3年度に検討した森ハブの支援内容をアップデートし、支援機関としての森ハブの機能を再考した

### 森ハブの支援内容（赤字部分を追記）



## 3. コーディネーターの役割検討

- ヒアリング結果をふまえ、令和3年度に検討したコーディネーターの人材像や求められる役割を再考した
- 地域での技術導入推進には、実証・事業化の前段階である場の形成フェーズからの支援が必要とされていることがわかったため、場の形成フェーズにおけるコーディネーターの役割の検討を行った
- コーディネーターに求められる役割は地域の成熟度（フェーズ）ごとに変化するため、フェーズに応じた適切な人材をマッチしていくことが重要である

### 場の形成フェーズにおけるコーディネーターの役割

エコシステム構築フェーズ	場の形成		
前期フェーズ	意識醸成・課題の気づき	課題の深掘り	取組検討・体制構築
コーディネーター対応事項	<b>地域状況の正しい理解と共有</b> ・ 統計情報等の分析 ・ 自治体や事業者へのヒアリング ・ 現場ワーカーの意識 ・ 取組の報告（策定、人材・組織）	<b>あるべき姿の検討・共有</b> ・ ワークショップ実施（GAP分析等） ・ 地域ビジョンの検討 ・ 先進地視察・報告	<b>運動計画（アクションプラン）の検討</b> ・ 実施計画の検討（短期・中長期） ・ 取組手順の整理 ・ 取組の優先順位付け
	<b>プレイヤーニーズや意向の確認</b> ・ 事業者アンケートの実施 ・ 意見交換会	<b>根本課題・主要課題の探求</b> ・ 原因の分析 ・ 解決策の検討	<b>体制構築</b> ・ プレイヤー情報の整理・問い合わせの検討 ・ 活用可能な資源の整理
事務局対応事項	<b>場の形成にかかわる支援</b> ・ 先進地や技術事業者等との情報交換の場の提供 ・ ワークショップ運営や活動計画の実定にかかるコーディネーターへのアドバイス ・ 自治体職員等、協力者のマインドセット		